

西部地域 NPOと市町村との協働アイデア提案会 実施結果

日時 平成19年7月27日（金） 13時～16時40分
場所 川越地方庁舎大会議室
発表 13団体
参加者 85名（NPO27、市町村35、一般8、県15）
内容 プレゼンテーション（各9分）、質疑・意見交換（50分）
※すべて全体会場で実施
コーディネーター 望月泰宏氏
（特）フリースクールむさしの学園 代表理事

【意見交換より】

- ・ NPOは、行政や民間が既にやっている事業や、行政組織の枠組みなどについて、情報収集の努力をする必要がある。
- ・ NPOからの提案となると、正直構えてしまうところがある。NPOから行政へ企画書を出す際には、「お気持ちで」とか「要相談」ではなく、事業と予算をセットにして、複数のメニューを持ってきてもらいたい。役所も、「協働しなくては」という意識はあるので、具体的な提案があると動きやすいと思う。
- ・ 行政は、組織間でもっと連携し、総合的に解決できるようにしてほしい。



【コーディネーターのまとめ】

- ・ 行政にプレゼンテーションするには、①数値の透明性、②実績と協働提案の連動性、③成果物の継続性、のポイントが大切である。また、企画段階から共に考えるプロセスの有無が協働の質を決める。
- ・ 協働事業の実施に当たり、行政が支出する経費は、「税金」が原資であることを、NPOも行政も、忘れてはならない。



【アンケート結果】

アンケート回収率 44.7%（38名回答）

- ・ プレゼンテーション 参考・やや参考になった 86.8%
- ・ 意見交換 参考・やや参考になった 84.2%
- ・ 提案会の必要性 今後も必要である 84.2%